



長期滞在クルーのケル・リングリン（左）、オレグ・コノネンコ（中央）宇宙飛行士とともに冬季サバイバル訓練開始

「ISSでの活動を通じ、さまざまな国が協力して未来を生み出すことの大切さを伝えたい」

油井亀美也宇宙飛行士

2014年1月27日～29日に行われたロシア郊外での冬季サバイバル訓練後、油井宇宙飛行士はガガーリン宇宙飛行士訓練センター（GCTC）で、ケル・リングリン、オレグ・コノネンコ宇宙飛行士とともに、ソユーズ運用を模擬したシミュレーション訓練を始めました。

また、2月3日から5日間にわたって、前後のインクリメントのクルーとともに軌道上で食べる宇宙食のチェックも行いました。試食では、前菜、サラダ、スープ、肉（牛、鳥）、ロシア風ミルクかゆのポリッジ、アプリコットジュースなどを缶詰から取り分けながら食べ、「Как вкусно!（何ておいしいんでしょう）」などロシア語で感想を言いながら採点が行われました。GCTCでの訓練時や搭乗するソユーズ宇宙船内では、メンバー間のコミュニケーションはロシア語がベースになります。もちろん講義もロシア語で行われるため、毎日の予習復習はかせません。

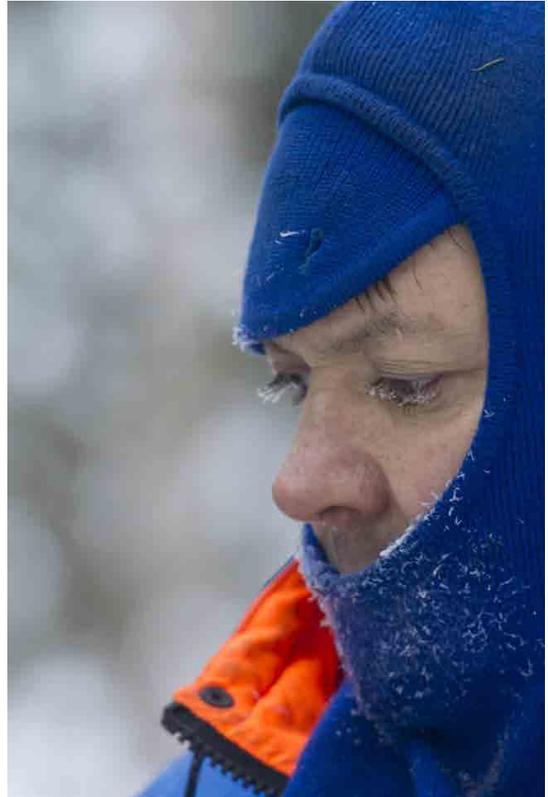
若田光一宇宙飛行士に引き続き、1年後の2015年に国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在を控えた油井宇宙飛行士は、「-25℃の環境下で終日外で過ごした訓練はとて寒くて大変でしたが、一緒に長期滞在するクルーと協力しながらの2日間はあっという間でした。以前に経験したNOLS野外リーダーシップ訓練に比べると訓練日程も短く、もう終わっちゃったの？という感じでした（笑）。ISS滞在中に取り組んでみたいことは、アジア諸国との協力です。さまざまな国がどれだけ協力できるかが人類の明るい未来に繋がるという結果を、前職の自衛隊に勤務しているときから実感していましたので、平和ということや、それに繋がる、協力することの大切さをISSでの活動を通じて伝えていければいいなと思っています」と語りました。

長期滞在に向けてまだまだ訓練は続きます。皆さまの応援をどうぞよろしくお願いいたします。

Photo Report



サバイバルキットに入っている斧を使って森で木を集め、耐風マッチで火を起こす



あまりの寒さにまっげに氷が...

パラシュートを利用したシェルター作り
画像：JAXA/GCTC

Message



サバイバル訓練の様子は、星の街のホームページで紹介されています。写真だけでも様子が理解していただけるとと思います。ロシア語を勉強中の方は、ぜひ読んでみて下さい。この機会にロシア語を覚えたいという方！一緒に頑張りましょう！

<http://www.gctc.ru/main.php?id=2327>